

茨城県原子力安全対策委員会（令和5年度 第1回）資料1に係るコメント対応表

No	当日資料の該当ページ	委員からのコメント	発言者	当日の回答	コメント回答
1	—	薬品を作るときの化学物質も同時に廃液処理施設に流していたと思うが、その化学物質による影響はなかったのか。	岡本委員	排水は、一次洗浄液はポリタンクに貯めて適切に処理することとなっております。該当する配管にはガラス器具などを洗浄した二次洗浄液を流しており、化学物質への影響は無いと考えております。	当日の返答通りです。
2	—	排水管の高経年問題について、どのように考えているのか。		排水管の専門家に確認したところ、昔は50年といわれていましたが、今は100年近く持つとのことですが、定期的に配管を点検し、劣化が認められた場合は適切に交換を実施していきます。	当日の返答通りです。
3	29	配管を地上に出すという変更に対して、どのような体制でリスクアセスメントを実施しているのか。	小川委員	センター長が最終の責任者として実施します。	当日の返答通りです。
4	9,17	9ページ目に無かったという結論に達しているのに、後の17ページ目には実際に $^3\text{H}$ , $^{14}\text{C}$ カーボンが検出されている。齟齬が見られるので確認してはどうか。	塚田委員	漏えいしている可能性のある箇所が2箇所ありました。それを一つずつ検証した結果、9ページ目では1箇所目は漏えいが無かった、2箇所目は漏えいがあったということとなります。	当日の返答通りです。

No	当日資料 の該当 ページ	委員からのコメント	発言者	当日の回答	コメント回答
5	17	実際使用量の何パーセントくらいなのか記載してはどうか。			「脱落箇所 B の配管の上位に当たる 111 室の RI 使用量」と「そこから排水した放射エネルギー」、「脱落時期」が不明確となりますので記載は控えたいと考えております。
6	40	NaI シンチレーションサーベイメータは $\gamma$ 線しか検出できないので、 $^3\text{H}$ と $^{14}\text{C}$ の測定ではないことを留意して記載すべきではないか。		承知しました。	語弊が無いようスライド 40 の「方法」を修正します。
7	—	脱落の部分は何か工事の時にミスがあったのかという感じがするが、地震が原因なのか。どういう理由で破断したか調査をされたのか。	西川委員	外部の調査機関に調査していただいた結果、外部応力によってほぼ瞬間的に破壊されたことが分かりました。その他にも様々な検討を行い分析した結果、工事のミスではなく、地震である可能性が一番高いと結論付けました。	当日の返答通りです。
8	22	壊れた時に大きな地震があったという事実はあるのか。		東日本大震災がありましたので、その頃ではないかと考えております。	当日の返答通りです。
9	21	吊り金具が適切な間隔でできていなかったために破断したのか。		第三・第四実験棟は振れ止め支持が設置されていたため問題ありませんでした。第一実験棟には設置されていませんでした。	当日の返答通りです。

No	当日資料 の該当 ページ	委員からのコメント	発言者	当日の回答	コメント回答
10	10	脱落箇所 B で L 型配管の部分も破断しているのか。		L 型配管の根元部分（金属チー ーズとの接合部）で割れてお ります。	当日の返答通りです。
11	21	結果的に振れ止めが設置されてい なかったことが一番の理由なのか。		そのように考えております。	当日の返答通りです。
12	13	土中埋設配管で漏えいが起きてい ない確認はどのようにしたのか。	桐島委員	土中埋設配管は10～20センチ 程度の土被りで、シミが見ら れないので漏えいしていない と考えております。	当日の返答通りです。
13	13	ファイバースコープで確認したのか。		ファイバースコープでの確認 は行っておりませんが、可及 的速やかに、年度内には配管 を地上化したいと考えており ます。	当日の返答通りです。
14	13	その方法は十分な方法なのか。		配管が土中にあれば空中より 強度はあると考えられるの で、土中にシミが無いとい うところで現状できる限りの 確認として十分であると思 っております。	当日の返答通りです。
15	13	土中配管を撤去する際は確認する のか。		確認いたします。	撤去作業時は埋設排水管の健全 性および漏えいの有無を確認 いたします。

No	当日資料 の該当 ページ	委員からのコメント	発言者	当日の回答	コメント回答
16	28	漏水検知器の結露対策はどのように実施するのか。		漏水検知帯を配管には巻かず、配管の下に設置します。現場は季節通じて湿気がありますが、誤報が発生しないよう業者としっかり対策していきます。	今回漏水検知器設置予定の場所は、温湿度が管理されている部屋の天井裏となります。そのことから、結露の可能性は低くなると考えております。
以下、寺井委員は当日委員会を欠席されたが、コメントを頂いたため記載する。					
17	5	$^3\text{H}$ から放出される $\beta$ 線の飛程について、「最大飛程→空気中での最大飛程」とした方が良いのではないかな。	寺井委員		スライド5「炭素( $^{14}\text{C}$ )、トリチウム( $^3\text{H}$ )の性質」に追記致します。
18	6	第二実験棟を RI 非管理区域にした時の汚染検査は適切に行われたか。あるいは、その後の調査で問題なかったということか。何らかの記載を行った方が良いのではないかな。			第二実験棟は、2007年に適切に汚染検査を行い一般区域化されました。その旨スライド6ページに追記致します。
19	19	破断箇所 A の写真では、上部側ソケット破断面の写真で二重円管構造になっているように見受けられるが、その内側のものは、継手を構成するためのものか。			二重円管構造ではなく、内側が配管となり、外側が2本の配管を繋ぐ継手でした。今回破断はこの継手で発生しておりました。

No	当日資料 の該当 ページ	委員からのコメント	発言者	当日の回答	コメント回答
20	29	<p>標題が間接的原因③の対策となっているが、「間接的原因③」そのものについての説明がないように見受けられる。スライド 25 での間接的原因の調査結果②の後半を受けているのか？あるいは、スライド 28 の「間接的原因②の対策」の続きということなのか。</p>	寺井委員		<p>スライド 28 ページの「間接的原因②の対策」の続きとなります。分かりやすいようスライド 29 ページの表題を修正致します。</p>
21	36、38	<p>脱落箇所 B から土壤に漏えいした放射エネルギーを見積もったときに、厳密に言えば、<sup>3</sup>H の半減期（12 年）を考慮して評価すべきかと思われる。測定精度や絶対量から考えて、結果的に全く影響がないことは明白だが、コメントを付けたほうが良いのではないか。</p>			